



よら
い
や
ら
い
や
ら

公民館



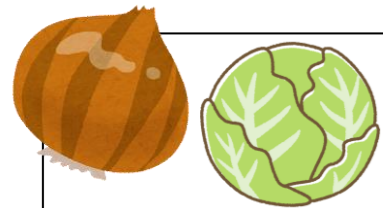
「自分も中に入って体感する」

ずっと前、1週間のキャンプの記録係として写真を撮る仕事をしたことがありますが、その時の事です。

キャンプも4日目で、私は子どもたちとのコミュニケーションが取れるようになっていました。カヌーをする様子を写すのですが、私は望遠レンズ（性能は良くない）を持っていたので、遠くから笑顔をバシバシ撮りました。そこに遅れて新聞社のカメラマンがやって来て、二人乗りカヌーの後ろに乗せてもらって写真を撮っていました。私は、初めて会うカメラマンに子どもたちの笑顔の写真は難しいだろうと思いました。（生意気にも・・・）

ところが、翌日の日本海新聞を見て愕然としました。新聞社のカメラマンが撮った写真は、全員がカメラマンを向いて笑っているのです。改めて私の撮った写真を見ると、全員笑ってはいるけれど、友達を見ているので写真が第三者的というか、迫力がありません。このことで、当事者の中に入って物を見ると違った見方ができるということを学びました。

それからは、「自分も中に入って体感する」が私のポリシーになっています。



とくさんの畑日記

白菜が巻かない・・・

葉物はアオムシのえさにされてしまうのであまり作らないのですが、今年は白菜を5本だけ植えてみました。虫対策について調べたり聞いたりして、「トレボン」という毒性の少ない薬を使いました。お陰で虫に食べられることなくすくすくと巨大に育ちました。直径が60センチくらいになったので、今年は鍋料理がたくさん食べられるぞと期待していました。しかし、いつまで待っても巻きません。以前研修会で、巻かない白菜を紐で無理やり縛るのは拷問だと学習しました。あれは、寒さ対策だそうです。だから、じっと巻くの待ちました。結果はやはり巻かず、花が咲いてしまいました。どうも肥料が足りなかったようです。他にも原因があるでしょうが分かりません。

結局、今年も鍋をする度に白菜を買いました。白菜を買う度に無念さが蘇ります。

ああ、本当に野菜づくりは奥が深いと感じました。



白砂には見えないけれど、巻かない白菜です

シリーズ 知ってましたか、青谷のこと？

「青谷かみじち史跡公園」オープン 愛称は・・・



国王の吉田さんや上寺地史跡を学ぶ青谷高校の生徒も、テープカットを担当

3月24日に青谷かみじち史跡公園の開園セレモニーが行われました。平井知事の挨拶の後、800を超える応募の中から選ばれた愛称の「YAYOINE(やよいーね)」が紹介されました。

青谷上寺朗のそっくりさんコンクールで優勝して国王をつとめている大阪の吉田さんも審査に関わられたそうで、「弥生」と、「いいね」「稲」などを掛け合わせたこの愛称が気に入ったということです。

青谷の住人としては、この公園を青谷のシンボルとして大切に、多くの来館者を呼び込みたいものですね。

また、展示ガイダンス施設の裏にはこの日だけ弥生のグルメとして町内の飲食業者が店を出して賑わいました。

現在、子ども会や老人クラブ等の団体の予約が入ってきつつあるということです。みんなでかみじちを盛り上げましょう！



平井知事も、上寺地クラブによる餅つきの企画に参加されました。



大阪の吉田さんは、「髪はすぐには伸びませんから」と言って、日頃からずっと髪型を変えずに営業の仕事をしているそうです。国王として、頻繁に青谷にいらっやっています。

おわりに

私の借りている畑の隣の畑が継続できなくなっていたのですが、この度畑を引き継いでくださる人が見つかり、土地の持ち主も隣の私も喜んでます。引き継いでくださる方は、私の書いた畑日記を見て畑を増やそうと思われたそうです。このくらいなら自分にもできそうだと思っていただけだったので、嬉しい限りです。

御覧の通り、私の畑づくりは失敗ばかりですが、時々いいものができます。耕作できなくなった畑はたくさんあると思うので、畑としての継続ができなくなった人、畑仕事をしたいけれど畑が無いという人は、声を掛けていただければと思います。家庭菜園をして、みんなで田舎を楽しみましょう。